平成２２年度

―第８回（定例・臨時）―

教育委員会会議録

開　　会	平成２２年　８月　６日	~~午前~~ 午後	２時３２分			
閉　　会	平成２２年　８月　６日	~~午前~~ 午後	４時０２分			
会議場所	教育委員室					
委員出欠	上野道善	出	濵上和康	出	平田静太朗	出
	藤岡庄司	出	松村佳子	出	冨岡將人	出
議事録署名	教　育　委　員　長					
委　　員	教育委員長職務代理者					
書　　記	奈良県教育委員会事務局 企画管理室					

議　案　及　び　議　事　内　容	結果
次　第	
議決事項１　平成２２年度奈良県教育委員会の点検・評価基礎資料について	可　決
報告事項１　平成２２年７月文教委員会の概要について	承　認
報告事項２　平成２２年度全国学力・学習状況調査の調査結果の概要について	承　認
報告事項３　平成２１年度における生徒指導上の諸問題の状況（小・中学校における不登校）について	承　認
議決事項１　平成２２年度奈良県教育委員会の点検・評価基礎資料について	
○委員長　「議決事項１について説明願います。」	
○教育長　「奈良県教育委員会点検・評価実施要領」に基づき実施する、平成２１年度における県教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価に関する基礎資料がまとまりましたので、企画管理室参事よりご説明いたします。」	
○企画管理室参事　・・・資料に基づき説明・・・	
○藤岡委員　「理科支援員の派遣により、理科を好きになった生徒数が伸びている。数学や国語が好きな中学生が全国に比べ少ない。改善するにはどのようなことがあると考えているか。」	
○企画管理室参事「ひとつは、教師の授業における指導力の向上、学力学習状況調査の結果をふまえた、改善支援プランを県で作成し、それを活用しながら授業に取り組むという働きかけをする。それから、教育課程の説明会の機会や、教育研究所での研修講座を通じて、子どもたちの興味関心を引くような授業が構成できるよう教員の力量をつける恒常的な取り組みが必要である。」	
○藤岡委員　「理科支援員の派遣は有効であった。数学、国語の支援員等の派遣といった補助的な教員の派遣は出来ないものか。」	
○学校教育課長「理科支援員は理科の実験実習補助をしていただいている。算数、	

議案及び議事内容	結果
国語が好きな小学生は多いが、中学校になると下がってきている。国語の授業では子どもたちの身近な材料を取り扱う工夫が必要ではないか。指導資料に国語、数学とも事例をたくさん挙げ、より子どもたちの関心を高められる資料と指導方法を検証したい。」	
○松村委員　「理科支援員派遣事業は、県単独事業か、補助事業か。民主党の事業仕分けで補助事業額が下がってきているのではないか。数学の支援活動をするのであれば、ボランティアを活用するか、ＪＳＴのようなところになると思う。」	
○理事　「理科支援員事業の事業費は、ＪＳＴがかなりの額を負担している。この資料の実施状況については、昨年度のものであって、平成２２年度では理科支援員の人数が減少している。事業仕分けの影響で、来年度はさらに難しい状況になる。これに代わるものを用意できるかどうかとなると、予算的に難しい。」	
○平田委員　「結果についてはアンケートの取り方によっても変わると思う。「数学が好きか、嫌いか。」となると嫌いとなることが多いのではないか。ただ実際の成績とは違うと思う。」	
○教育長　「学力学習状況調査の中で実施していて、そこでは、好きか嫌いかの問いとなっており、調査方法としては全国一律である。」	
○平田委員　「好きか嫌いかでは嫌いだが、成績はよいこともある。」	
○教育長　「奈良県の傾向を見ると、成績は比較的よいが、好きか嫌いかと聞かれれば、全国平均以下となってしまう。現況はそこそこできるが聞かれれば嫌いと答えている可能性は高い。」	
○平田委員　「子どもの気持ちを単純なイエス、ノーで、計ってはかってはいけないと思う。」	
○理事　「文部科学省に質問の方法を変えてほしいと言いたいところもあるが	

議　案　及　び　議　事　内　容	結果
一定の経年変化も見る必要があるのでこの調査を活用している。」 ○藤岡委員　「全国調査を同じ質問でおこなっているので、全国に比べて悪いということが問題である。」 ○教育長　「数学、国語に理科支援員のような人を配置して、成績が上がるという教科ではない。興味を持つような指導の方法が大事だと思う。」 ○藤岡委員　「これまでも努力していただいているのではないか。」 ○教育長　「これまでも努力をしてきたが、その努力が足らなかったということになる。数学においては少人数指導を実施しているが、それでもなお数学を好きではないという。一方で、奈良県の傾向として、子どもたちは勉強している時間が長く、睡眠時間が短く、ゲームをする時間が長い。これと因果関係があるのかとの見方もできるが、不明である。数学を好きになるよう教員の方々に頑張ってもらいたい。」 ○委員長　「この件について、原案どおり議決してよろしいか。」 ※　各委員一致で可決	
報告事項１　平成２２年７月文教委員会の概要について	
○委員長　「報告事項１について報告願います。」 ○教育長　「去る７月２３日に開かれました、平成２２年７月文教委員会（初度委員会）の概要につきまして、教育次長より、ご報告いたします。」 ○教育次長　・・・資料に基づき報告・・・ ○藤岡委員　「７月２３日の文教委員会で岡委員から「指導改善研修の実施について」の質問があったが、どの様なものがこの研修を受けるのか。」 ○教職員課長「指導改善研修を受ける教員は、授業力、子どもへの指導力が欠けているもので、研修を受けて現場に復帰していただく。」 ○濵上委員　「教育現場は様々な対応を含めてたいへんな時代になってきている。指導力を保つために自ら休みを勉強のために費やしている。責任感のあ	

議案及び議事内容	結果
る教員は自分の指導力、子どもとのコミュニケーション、地域や保護者との関わり方の難しさ等、真剣に向き合えば向き合うほどたいへんである。教員は夏休み中の研修、セミナー等に参加されるのもいいが、休みは長期的にしっかり取ってリフレッシュをし、そして、新しい気持ちで学校へ戻るという指導もしていかないと、プレッシャーばかり受けてしまうことになる。このようなケアも必要ではないか。」 ○上野委員　「教員は保護者との関わりにかなりのウエイトをさいていると思う。教員の実力が充分発揮できないこともある。」 ○濵上委員　「教育現場に対応できる教職員を採用することが難しい部分もある。優秀な教職員を採用することが難しい時代に入ってきているように思う。」 ○委員長　「この件について、承認してよろしいか。」 ※　各委員一致で承認	
報告事項２　平成２２年度全国学力・学習状況調査の調査結果の概要について	
○委員長　「報告事項２について報告願います。」 ○教育長　「今年の４月２０日に実施されました全国学力・学習状況調査の調査結果が、文部科学省から７月３０日に発表されました。本年度の調査結果の概要につきまして学校教育課長より、ご報告いたします。」 ○学校教育課長　・・・資料に基づき報告・・・ ○松村委員　「授業研究は奈良県だけでなく他の府県でも減っているようだが、その原因はなにか。土曜日が休みになったなど理由はあるのか。」 ○学校教育課長「現場教員の話では、年間の計画段階では授業研究する取り組みは減っていないが、実際は忙しさ、特に生徒指導関係で多忙な学校では、最終的に授業研究が数多くできていないという実態があるようだ。特に研究会活動が若干低調になってきている。」	

議案及び議事内容	結果
○松村委員　「研究会活動を活発にするにはどうしたらよいか。」 ○学校教育課長「教育長も高等学校を元気にさせたいという思いを持っておられる。研究会、部活動を含めた元気化というものを考えておられる。」 ○教育長　「知事との夏期討論において話題となった。発案として実績を上げた学校に必要な予算を持って行こうという考えで、高等学校が元気であると、それが中学校、小学校に伝播していくと考えている。予算が必要な事象については、現段階では確定ではないが予算要求したい。」 ○藤岡委員　「教員研修の参加が少ない。教員研修を積極的に推し進めるのと海外研修を含め研修等を積極的に進めてはどうか。医学界でも同様であるが研修活動は一生懸命やるべきかと思う。反面成果を問うのは必ずしも良くないと思う。成果を問う必要のない研修も行うべきだと思う。」 ○教育研究所副所長「教育研究所アドバイザリーチームでは、過去４年間で全ての学校を巡回した。今年度からは２巡目に入っている。各学校とも職員研修に神経質になっている。どの学校も職員研修はしっかりやっている。アドバイザリーチームの巡回報告について準備できれば各委員にも報告したいと思っている。」 ○委員長　「この件について、承認してよろしいか。」 ※　各委員一致で承認	
報告事項３　平成２１年度における生徒指導上の諸問題の状況（小・中学校における不登校）について	
○委員長　「報告事項３について報告願います。」 ○教育長　「平成２１年度に３０日以上欠席した、小・中学校の不登校の児童・生徒数について、奈良県の状況を取りまとめましたので、学校教育課長より、ご報告いたします。」 ○学校教育課長　・・・資料に基づき報告・・・ ○松村委員　「カウンセラーはどれくらいの学校に配置されているのか。」	

議　案　及　び　議　事　内　容	結果
○学校教育課長「小・中学校５４校、高等学校４校に入っている。」	
○上野委員　「不登校から登校するようになった生徒は、そのまま卒業まで登校しているか。」	
○学校教育課長「指導の効果が上がれば、ほぼ解消される。」	
○濵上委員　「奈良県がワースト４位とは考えられない。事務局ではそのような実感はあるのか。」	
○学校教育課長「調査自体を基準も含めて詳しく分析する必要があると考えている。これは基本調査というもので、３０日以上の欠席者に対して４分類している。病気、経済的理由、不登校、その他となっている。その他には、親が教育に理解がない、親の放任や無関心も入ってくる。その他と不登校が分けにくい。中学校について大阪府では１２，２４８人の長期欠席者でうち不登校が７，３７５人でその他が２，０２９人になっている。奈良県では不登校が１，２５３人で、その他が１９７人である。この辺の基準も徹底できていないように思う。都道府県ごとにブレがある。正しく統計調査ができているのか原点から見直したい。不登校小委員会では３０日以下、５０日以上の実態の報告も今年度してもらうことになっている。また、続けて休みを取っているのか、出席と欠席を繰り返しているのかの報告もしてもらう。」	
○藤岡委員　「実際資料を見ると、小学校では１，０００人あたり４．２人であるので５００人の学校で２人の計算になる。小学生５００人あたり２人位いるかという感覚はある。一方、中学校は１，０００人あたり３２．５人で中学校３校くらいでこの数字は異常に多いように思う。」	
○学校教育課長「中学校でも、毎日誰かがひとり休んでいるという状況が見られるわけではない。統計上クラスに１人位になるが、現場の担任は１０年経験しても２人位しか受け持っていないと言っている。」	

議　案　及　び　議　事　内　容	結果
○藤岡委員　「この３０日は欠席を続けて３０日のことか。」 ○学校教育課長「年間累計での３０日である。」 ○濵上委員　「藤岡委員の言うように、小学校の数字は理解できるが中学校は多い。奈良県は、教育県であり、地域のコミュニティがあり、小さな、穏やかな県であるのに、ワースト４位と言われると、奈良県はそういう県ではないと感じている。」 ○学校教育課長「奈良県の場合、小学校と中学校と両方１０位以内に入っているので、それも影響している。小学校や中学校で改善しているのはどんな府県なのかもしっかり分析したい。データ的には中学校では他府県と差のないところで並んでいる。」 ○理事　「小・中学校あわせて、奈良県は１３．０人で、全国平均は１１．５人であって、そんなに大きな差ではない。これまで全国的に見て、中学校で多くて３%位で、1，０００人中で３０人くらいである。約２０年位前では多いのは大阪、東京、神奈川であった。その時、奈良県は１%位であった。不登校は都会性の高い所ほど出てくると考えていた。それが全国一律に現れるようになってきた。都会性では言えなくなってきた。」 ○学校教育課長「引き続き分析していきたい。」 ○委員長　「この件について、承認してよろしいか。」 ※　各委員一致で承認	
その他報告事項 ①　学校非公式サイト監視・調査研究事業の実績について　（学校教育課長） ②　平成２２年度第１回奈良県社会教育委員会議の概要について （人権・社会教育課長）	